

第10回 第5分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年11月7日 午後7時00分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 久保田、竹前
		責任者	区事務局（松浦・池田）
会議出席者：23名 （区民委員：16名 学識委員：1名 区職員：6名）			
<p>■配布資料</p> <p>①第9回会議録</p> <p>②ワークシート（11月7日）</p> <p>③廣江先生説明資料</p> <p>④素材カード追加分</p> <p>⑤素材シートまとめ</p> <p>⑥第5回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ</p> <p>■進行内容</p> <p>1 はじめに</p> <p>2 廣江先生より説明</p> <p>3 グループワーク</p> <p>4 発表・意見交換</p> <p>5 まとめ</p> <p>6 事務連絡</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1 はじめに</p> <p>○： 配付資料の確認（6点）</p> <p>本日の進め方について</p> <p>本日は、グループワークを中心に行います。前回、区より説明しました「都市マスタープラン」、「歩きたくなるまち新宿」、「観光関連調査」及び「素材シートまとめ」を用いて、討議していただきます。その後、各班より発表をしていただき、質疑・意見交換を行います。最後に、先生からまとめをお願いします。</p> <p>また、来年2月19日に中間のまとめの発表会があります。それに向けて、各分科会のメンバーから構成されるワーキンググループを作ります。各分科会間の意</p>			

見の調整やどのような形で中間のまとめを運営していくかなどの具体的な作業に入らせていただきます。後程、事務連絡のところで、皆さんの中からどなたか、第5分科会を代表して、2～3名の方を選出したいと思います。よろしく願いします。

なお、グループワーク、質疑・意見交換、まとめのところで、本日もどなたかに司会をお願いしたいと思います。今までやられていない方、できれば、今回は女性の方で誰かいらっしゃいませんか。いないようですので、こちらから指名させていただきます。(指名→了承を得る)では、後程、お願いします。

2 廣江先生より説明

- ◎： 前回、具体的な提言に向けて作業をしていきましようとお話ししました。提言を行う上で、作業を行うためにも、これまで皆さんがやられてきたこと、あるいはお住みになっている周囲を見た場合にいろいろやられていること、そういう細かいことを十分意識しながら、それをどういう方向でまとめていけばよいかをお考えいただきたい。前回、図書館の例などを出してお話ししました。そういう作業をこれからやっていきたいと思えます。

資料が2つあります。A4横の資料を見てください。この資料で言いたいことは「区民会議の役割」は何なのかを絶えず見直しましょうということです。たくさん文書が配られていますが、これは第1回に配られたものからの抜粋です。1ページの右下に次のように書かれています。「構想や計画に盛り込むべき内容について約1年間検討を行い、その結果を提言書として平成18年6月までに区長へ提出いただきます。」これがまず私たちの役割の一つです。中間発表が2月です。二つめは、「区民会議の方には、基本構想審議会が区民会議の提言について一定の考え方をまとめた段階で、それに対する意見を平成18年11月頃提出していただきます。」つまり、提言を行って、それがどう取り入れられたかということについても意見を言うことになります。ですから、第5分科会の「産業、文化・観光」ということに、特に関わって、どういう意見を言うか。例えば、前回、グランドデザインの話がありましたが、そこに抽象的に書かれていることに対して、どういう意見を言うのか、それはなぜなのか、どうしてそれは区民にとってよいのかということこれから議論していけばよいと思えます。

そのための素材のひとつになるものですが、A3横の資料を見てください。この資料を見て、何がわかるかという素材がすごくたくさんあるなということです。提出していただいた15人の区民委員の方だけでもこれだけたくさんあります。これだけいろいろなことが身の回りで行われています。よく見ていくと、産業、企業については、意外と少ないなと思えます。身近なものはあるけれど、それ以上

のもう少し中規模、大規模なものは少ないとか、それから、イベントについても、これは第5分科会のテーマである、観光に使えるなどいろいろ皆さんがお気づきになるところがあると思います。あくまでこれは素材ですので、こういう素材の発見を絶えずしていったり、あるいは、これに関わる資料の発掘などをやっていた中で、同時にこういうものをもっと活かすためにはどうしたらよいかということ、これを第5分科会の「産業、文化・観光」で意見として、議論しながら、それを提言としてまとめていければよいと思います。また、区としては、いろいろとお考えになっていることがあって、それは前回のランドデザインでお話をいただきました。これはあくまでも抽象的なものですから、区民の立場からどのようにそれに対して意見を言っていくのか、それよりこれがいいということ、皆さんにお考えいただきます。その時に、問題の立て方として、第5分科会で皆さんがいろいろ経験したり、実践してきたことがたくさんあります。それらをよく理解しながら、これまでやってきたことだけでなく、これからを目指して、もっと幅広く考えていけたらよいと思います。幅広いと言っても、「産業、文化・観光」がこのテーマですので、そこからいろいろ議論した上で、外れることは他の分科会に任せることもできます。具体的なこと、抽象度の高いことも含めて、新宿区のこれからのあり方について、この分科会としての意見をきちんとまとめて、説得力のあるものになればよいと思います。そういうご議論をこれからは皆さんにお願いしたい。私がいつまでもでしゃばっているわけにはいかないので、だんだんとこの中でリーダーが決まってくれば、お譲りしながら、私は何らかの応援をしていきたいと思います。

○： ありがとうございます。これからグループワークに入っていただきます。なお、各班においてありますワークシートは最後に提出して下さい。

3 グループワーク

「都市マスタープラン」、「歩きたくなるまち新宿」、「観光関連調査」及び「素材シートまとめ」を参考にして、3班に分かれて、グループワーク

4 発表・意見交換

○： そろそろ時間になりましたので、発表・意見交換に入りたいと思います。司会の方よろしくをお願いします。

司会：本日、司会を務めさせていただきます。今日のテーマは難しく、皆さんどのようにお進みかわからないのですが、各班5分程度で順番に発表をお願いします。

● : (1班)

歩いてみたくなるまちということで話が進みました。新宿を魅力あるまちにしていくには、どうするか。現状はどうか。観光、文化と言っても、住民のためのものなのか、他の地域から人を呼ぶためのものなのか、受けとめ方にも違いがあります。歩いてみたくなるまちということでそれぞれの地域で掘り起こすことが大事だと思います。既に、新宿区でも、歴史、文化に関するいろいろなマップが作られています。それ以外に、現実にその地域に住んでいる人々の話の中からは魅力的な話、魅力的なまちの様子が甦ってくるのではないかと思います。特に、神楽坂では、昭和30年の地図と現在の神楽坂の地図とを重ねて見れば、まちの変化の様子、そこで暮らした人々の様子などが甦ってくるのではないかと思います。また、落合の地域では、地場産業の染色業がありますが、二葉さんという個人宅が染色のミニ博物館になっている例があります。地場産業の染色業の方が多くいるなら、ぜひ染色会館と言いますか、展示会ができたり、作業の様子を見学したり、染色体験できたり、着物を楽しめる着物教室などができる施設があればと思います。また、観光バスで落合地域を訪れる外国人もいるそうです。そういうまちとしての伸びやかな要素もあります。また、文化村もありますが、こうしたものをもっと掘り起こしていけば、いろいろと豊かな状況で発展できると思います。

司会：ありがとうございました。続いて、2班の方をお願いします。

● : (2班)

各自が置かれている立場がいろいろ違います。住民サイドからとビジネスサイドからでは考え方が違うということです。実際の生活に役立つまちづくりが果たして今まで行われてきたのかどうかということから話し合いを始めました。安心・安全なまちづくりという観点では、緊急時の対応は本当に行われているのか。例えば、高齢者が地震や火災が起きた時に、危険な場所を通過して、遠い公園などに避難しなければならないことなど、机上論に基づいたような対応があるのではないかと。また、住民サイドとビジネスサイドでは、コンテンツの考え方が根本的に違います。提供する側と求める側では考え方が違います。新しいものほど周知が難しい。例として、オペラシティがあります。逆に、歴史的、文化的裏づけがある所は集客が楽ですが、それを活かしているとは言えない。文化、観光の対象が明確ではないので注目度が低いことがあります。これは文化、観光の対象が区民だけを対象にしているのか、それとも、もっと広く他の人たち、外国人も含めて対象にしているのか。その対象が全くあいまいのため、地元の人だけが楽しんでいる。外からの人だけが知っている。例えば、落合のホビーセンターはマニアが知っているものの、地元の人には意外に知らなかったりします。それから、施設の場合、ソフトとハードの位置付けを工夫して、もう少しアピール度を高める

必要があります。施設として、建物を貸すことが目的なのか、何か催し物を提供することが第一なのか。このあたりの位置付けと言いますかもう少し宣伝、周知を図ることが必要ではないかと思います。施設を誘致する場合でも、施設の誘致と交通のアクセスなど地域との関係とリンクした開発をする工夫が必要です。例えば、オペラシティは、行く時は昼間で明るく気持ちいいが、帰る時は夜で暗く怖くて歩けないというのではどうしようもないという話が出ました。また、住民と国が同じスタンスでものを考えていかないと、いくら住民レベルで考えていても、国レベルで開発をされてしまうとそれが全く無に終わってしまう。まずは、住民レベルで実現可能な構想を立ち上げて、行政レベルに普段から積極的にアピールしていくという話が出ました。国などの行政レベルのプランにあまり頼りすぎていると、実生活とは離れてしまう。用地買収から実現まで時間がかかるので、出来たところで、入ろうとしても、用地買収から10年20年経って、自分が高齢化していて現実には転居できない生活状況になっていることもあります。現存する建物や公園など、新宿区内には大きな公園、文化遺産がたくさんあるのでそれらをもっと活かしていく必要があるのではないかと。また、これから先、新宿を中心に大規模な再開発が行われるであろうから、それに反対するというよりもどういう対応を図っていけば我々の今の生活がよりよいものになるかをこれから見据えていく必要があるのではないかと思います。

司会：ありがとうございました。では、3班の方をお願いします。

●：(3・4合同班)

素材シートに書かれている地域のイベントなどがすごく参考になりました。しかし、こうしたものが新宿区の基本構想などにどのように取り入れられていくのか、どういうふうに繋げていくのかを話しました。新宿区のやり方、縦割り行政が、日本の国でも地方でもそうですが、話を難しくしているように思います。今後、提言していく時には横のつながりを考えていく必要があります。そうしないとどんな意見を出してもうまくまとまらないと思います。例えば、図書館は管轄としては教育委員会ですが、そこでイベントを行う場合には商工観光等の部署との関わりが生じてきます。そういうことも含めて、全体で横のつながりを考えていくようなやり方を進めていく必要があります。広報とも関連しますが、区報は月3回出されていますが、私はあまり読んでいません。読んでも面白いと思わないからです。意見としては、区報をもっと活用して、読みたくなるような文章で、各地のイベント情報などがもっとうまく盛り込まれていればよいと思います。読みやすく、見たくなるような文章にしてあれば、区民は区報を見て、今月はこんなイベントが行われているとわかり、興味もわいて、もっと参加できるのではないかと思います。例えば、神楽坂のまち飛びフェスタ2005のパンフレットは読みたくなるような作りになっています。作り方が非常に問題になると思います。

区報の作成は区だけでなく民間、ボランティアなども含めてできればと思います。また、新宿区のタウン誌みたいな形で民間も含めて、地域のイベントなどを掲載して広報ができれば、より充実するのではないかと。広報が充実すれば、地域は活性化していくのではないかと。イベントなどがどこで何をしているのか地域の人以外は知らないのではよくない。対外的に、新宿区以外のことで考えると区報だけでなく、タウン誌など違うアピールの仕方でも検討していかなければならない。そのことを含めて、広報も絡ませながら提言していく必要があると思います。

司会：ありがとうございます。3人の方々の話の中で共通している点として、地元の人が知らないのに外から来る他の人にアピールしていくのは難しいし、自分たちがその辺を把握していないと地域のアピールには繋がっていかないと思いました。これから質疑応答の時間に入ります。総合的に何かご意見ある方がいましたらお願いします。

●：(1班)

補足いたします。まちの中で特徴のあるもの、施設をお話ししてきましたが、新宿にある多くのさまざまなものをひとつに集中させてみてはどうかと思います。そうすることでそのまちにある産業だとか施設などの特徴がはっきりしてくると思います。例えば、ラーメン屋のように一軒一軒バラバラになるのではなく、まとめれば中華街としての特徴がでてくるだろうと思います。また、その地域にあってこそいろいろな産業、文化というようなもの、働いている人々の暮らしとの関わりの中でわかってくることもあるかと思います。例えば、まちかど博物館のようなものが仕組みられていけば地域の資産として生きてくるのではないかと。そのためには、ガイドが不可欠である。また、ガイドの養成も必要だと思います。新宿区に住んでいる、あるいは、住んでいた人の生き様がわかるようなまちだということを、歩いてみると親しみも湧き、観光施策としての発展もできるだろうと思います。

司会：ありがとうございます。他にどなたかいませんか。

●：行政と区民と企業が一体となってランドデザインをつくっていくことができれば、区の予算がなくても、区民の方はボランティアで労力を出して、企業の方には少しお金を出していただければ、宣伝力もあるし、そういう形もあるのではないかと意見も出ていました。

司会：ありがとうございます。他にどなたかいませんか。

●：私は第5分科会のほかに、第3分科会に出させていただいております。新宿駅周辺地区協議会にも出させていただいて、先日、立ち上がって今日二度目の会議がありました。今日は役員と理事が決まり、このあとどういうテーマで進めていこうかという段階です。皆さんそれぞれの地区協議会に関わっている人、いない人がおりますが、個別のテーマを掘り下げていく時は委員に関係なく参加していけ

るようになっていきます。このような協議会も活用しながら、区民会議という役割を前向きに進めていけたらいいと思います。

司会：ありがとうございました。他に何かご意見などありましたらどうぞ。

- ： 前回の会議で、税収の面で特別区は他の地方都市と大きく異なる点があり、行政サイドと観光がタイアップしていく構造はなかなか難しいという話が出ていました。先日、NHKで小田原、箱根のまち、博物館について特集が組まれていました。行政と観光とが取り組み、熱心に活動していました。国レベルで開発しようと思っても、住民側一人ひとりの意見はほとんど潰されてしまいます。仮に新宿区の意見が都に通らない、国に通らなくても、区と住民側と一緒に協力して観光なり文化なりの何らかの事業を立ち上げて、認知されていけば、国は必ず変更してくれる。行政の方が住民サイドと一緒にあって、行うことにより、周知を図って、既成事実の積み重ねで、逆に、住民サイドからアピールしていくと国が動くという事例も決してありえないことではないと思います。小田原の例を挙げますと、現実に一年中お祭りをやっています。小田原は観光がなくなると非常に困るまちです。西湘バイパスが出来た時、インターを造るか、造らないかで、お客さんが降りるか降りないかでおおいに議論しました。一時はお客さんが減り、もう小田原はだめかという状況になりましたが、今は復活しています。それには行政レベルと中央とが太いパイプになって住民の声を上にあげて、それをさらに住民側を代表して行政側が国に伝えていくこと、はっきりとした太いパイプを持っていくことで夢がつながるのではないかと思います。それをあきらめてしまって、結局は国でやることの方が強いと言ってしまうとまた元に戻ってしまうような気がしますので、同じレベルは無理かもしれないが、ぜひ耳を傾けていただければと思いますので、よろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。では、次の方どうぞ。

- ： 先日、漱石山房の改修工事がありまして、私も参加してきました。区の方、漱石のお孫さんである半藤夫人を含めた漱石山房の関係者、漱石を研究されている学者、新聞社のジャーナリスト等が集まり、これから漱石山房をどういうふうに変えていくか話し合いました。これから春に向けて、素案を作っていくこととなります。それがクローズなのかいろいろな人が参加できるのかわかりませんが、私もメンバーなのでぜひ知恵があったら拝借したいと思っています。私はたまたま東京理科大学の生涯学習センターで「神楽坂学」の企画をやっております。今年で三回目となります。現在、神楽坂の夏目漱石編を行なっていて、漱石研究者にお話しをいただいております。その関係で漱石の足跡をたどって歩いているのですが、漱石公園に行った時に愕然としました。漱石の終焉の地であるにも関わらず、あまりにも漱石について検証がされていないと印象を受けました。そのことは多くの文学好き、漱石好きの方からも聞いておりました。今度、七千万円ぐ

らの予算をかけて改修するというのですが、漱石山房の復元はたぶん難しいと思います。ただ、漱石のお孫さんの半藤夫人がどうせやるならきちんとしたものを作ってもらいたいと言っておりました。早稲田の漱石研究者の先生も同感であると言っておりました。また、私は神楽坂をいろいろな方を案内して思うのですが、神楽坂には尾崎紅葉の旧宅跡があります。紅葉の生まれは港区芝です。港区は生誕の地でもあり、作品や原稿を集めたりするなど一生懸命に活動しています。紅葉が本当に頑張ったのは新宿区なのですが、紅葉について、批判ではありませんが新宿区はあまり熱心に活動しているとは言えません。私は法政大学でも生涯学習をしており、先日、落語を訪ねるということで四谷から寄席の跡地をたどりながら新宿まで歩きました。そこで圓朝の碑も見ました。明治時代の落語家の圓朝は新宿区が終焉の地であるにも関わらず、あまりそういう手当てがされていません。小泉八雲もあまり検証されていません。いろいろな作家にとってはあまり光栄なことではないという印象を受けます。ぜひ漱石山房の改修をきっかけに新宿で過ごした大作家、大落語家がおられますので、そういったPRをお願いしたいと思います。

司会：ありがとうございます。皆さんの話を伺いまして、いろいろこころざしのなものがひとつになって皆さんが集まっていると伝わってきました。また、大きなテーマとして、まちの財産をうまくアピールするものを具体的にしていかなければならないのかなと思いました。また、観光地ということで皆さんの自分の生活がかかっており危機感をもって取り組んでいるので、それがパワーとなって国を動かすような力になっていると思います。私たちのところはまだそこまでの危機感はないにしても、変えていくという意識が働かないと何も生まれてこないと思います。今後も皆さんと協力しあって、この分科会を成功させていきたいと思えます。以上です。ありがとうございます。

○： 司会の方、ありがとうございます。では、廣江先生よりまとめをお願いします。

5 まとめ

◎： いくつかの提案を含めて話させていただきたいと思います。他の分科会もそうだと思いますが、これを機会に何を変えていくのかを考えて、具体化していく。その時にそれが何なのかをもっと掘り下げていかなければいけないと思います。例えば、先程、話にでたオペラシティは、夜は暗いということですが、オペラを観た後、さっさと帰るものなのかということになってきます。あとの余韻を楽しむ場所がないという話になります。それだったら道路がなくてもいいのではないかと、それは無理なので他にに行ける場所があったらいいのではないかなど、そういうものをどう考えていくかの組み立ての問題だと思います。その中で、私がすごく重

要だと思うのは、先程、文豪の話が出ていましたが、私は過去を振り返るだけでは苦痛だと思います。それをどう現代を活かしたら本当に価値がでるのかという時に過去を振り返る意味が出てくると思います。やはりきちんと検証されていないというのは、区の責任だという前に区民の責任だと思います。私たちにとって大切な存在でないからそのままでもいいわけです。ではどうしたら大切な存在にできるのか。それを皆さんと一緒に考えていけたらと思います。金沢の例を出しますと、金沢の文豪三人のうち一人、徳田秋聲がいますが、秋聲旅日記という映画を作るのです。これは今の視点です。金沢に残っている景観を活かした映画を作る。これは非常に訴える力があります。そういうものを市民が参加してワークショップをしながら映画を作っています。そういうことをずっとやっていくというプロセスを大切にしています。新宿区はたくさん材料がありますから、いろいろできると思います。例えば、神楽坂での活動です。そういう意味でもう少しいろいろと材料を出しながらそれをどう料理していくかということにメスを入れていかなければならないと思います。その時に、やり方はいろいろありますが、何か目印がないとやりにくいだろうと思います。例えば、ランドデザインを材料にした場合、何をどう組み立てていけばもっとよくなるかといういろいろなレベルで議論をします。議論の中には、目的と目標と手段は違うと思います。ランドデザインにしろ、基本構想にしろ、これは目標だと思います。目的があって、そのための目標を設定して、それを実現するための手段をどうするのかという話になってくると思います。これは段々と区分けしていかなければいけないと思いますが、私はさしあたりランドデザイン、都市マスタープラン、観光関連調査などを含めて、このテーマについてどう考えるのか、このテーマではどうかということ具体的な作業としてやっていきたい。私の考えですと、目的がこうで、なぜそれをしなければいけないのかということが目的になります。それをやるためにはある一定期間どうやるのかというのが目標になると思います。その上でどうやるのだという時に、先程の区の広報があまり読まれないという場合に、それを情報手段としてどう使うかという時にランドデザインの関連項目の中でも情報発信について述べているわけです。では、他の手段を含めてどうするのだという話が具体的になってきます。そうしたものを全体としてまとめていくと、第5分科会として、産業、文化、観光という仕分けをする必要がありますが、それはそれでひとつのまとまったものになります。そういう作業がこれから必要になってくると思います。以上のことがまとめというより私の意見ですが、そのためにこういうやり方をしたらほうがいいということを次回に向けて考えていったほうがいいと思います。

6 事務連絡

○： ありがとうございます。それでは先程、お話ししましたが2月19日に中間のまとめの発表会があります。中間のまとめの発表会は区民委員主体で行っていきたいと思います。そのために、各分科会から2～3名程度をワーキンググループという形で出ただいて、各分科会間の意見調整、どういうコンセプトで中間のまとめを行うかなどを話し合っていきたいと思います。なお、第1回のワーキンググループの会議を11月29日に予定しております。第5分科会としても、自薦、他薦を問いませんので、2～3名程度を選出したいと思います。あくまで、今回は、中間のまとめまでの役割としてお願いしたいと思います。いずれ、リーダー、サブリーダーは正式に決めていかなければなりません。今日は、中間のまとめの発表会のワーキンググループとして、皆さんの中から選出したいと思います。よろしく願いいたします。

(区民委員から自薦、他薦を含めて、4名を選出)

○： 4名の方よろしく願いします。4名の方には、分科会とは別に月2回程度、ワーキンググループの会議を重ねていただき、各分科会との意見交換や調整をしていただきたいと思います。また、作業の内容については分科会で随時、報告していただきたいと思います。また、これとは別にリーダー、サブリーダーを年内の早いうちに決めていきたいと思いますので皆様ご協力をお願いします。

○： 最後に、皆さんに本日、各班でまとめていただいたワークシートの提出をお願いします。また、素材シートをまだ提出されていない方は早めに事務局までご提出をお願いします。

* 次回の日程について

・ 11月25日(金) 19時～21時

新宿区役所第二分庁舎2階2-①会議室(旧四谷第五小学校)

* 第5回「新宿まちづくり学」講座

・ 11月28日(月) 18時～20時50分

早稲田大学総合学術情報センター(国際会議場)3階第3会議室

テーマ：地域産業と観光

産業については、廣江先生が「新宿的産業を考える」というテーマでお話しいただきます。第5分科会に関連する内容ですので、ぜひ皆さんご参加下さい。

以上